

日時：令和6年12月2日(月)18:00から20:00

場所：富山県民会館304会議室(第二会場)

出席者(□は出席者○は委任状提出者)

中川一(顧問), 寶馨(顧問), 道奥康治(顧問), 中北英一(顧問), 清水康行(顧問), 清水義彦(顧問), 泉典洋, 佐山敬洋, 小田僚子, 矢野真一郎, 溝口敦子, 高橋正行, ○椿涼太, 風間聡, 入江政安, 竹林洋史, 大石哲, 手計太一, ○森脇亮, 中山恵介, 田端幸輔, 音田慎一郎, 川村里実, 山田朋人, ○岩崎理樹, ○梅田信, 川越清樹, 二瓶泰雄, 鼎信次郎, 田中規夫, 宮本仁志, ○芳村圭, 平林由希子, 小澤盛生, ○瀬崎智之, ○柿沼太貴, ○佐藤隆宏, 陰山健太郎, 荒木千博, ○渡邊武志, 中村要介, ○岡村誠司, 戸田祐嗣, 谷口健司, 武田誠, 市川温, 川池健司, 小林健一郎, ○田中賢治, ○山上路生, ○山口弘誠, 赤松良久, 内田龍彦, ○高橋直己, ○杉原裕司, 重枝未玲 (書記:谷口) (委員出席33/50名、委員委任状:15名)  
大槻順朗(オブザーバ), 五十里洋行(オブザーバ), 深見和彦(オブザーバ), 呉修一(オブザーバ)  
杉野詞音(土木学会事務局)

#### 0. 泉委員長挨拶

- ・議事に先立ち、泉委員長より挨拶があった。

#### 《報告事項》

1. 令和6年度水工学委員会構成(幹事長) 資料1-1, 2
  - ・資料に基づき説明された。メンバー体制とも特に変更なしとの説明がなされた。
2. 令和6年度の年間スケジュール(幹事長) 資料2
  - ・資料に基づき説明された。これまでの事業の紹介。3月に表彰等のための第3回委員会を開催する旨説明された。
  - ・次年度以降についても概要が示された(詳細はのちほど)
3. 令和6年度水工学に関する夏期研修会(大阪公立大学, 山口委員(代理:幹事長)) 資料3
  - ・資料に基づき説明された。
  - ・海岸工学が主担当。台風10号のため直前にZoomとのハイブリッドでの開催に切り替え、半数がオンラインでの参加となったが、質疑は活発であった。
  - ・赤字となったため、水工学委員会から25万円の支出により経理上黒字とした。
  - ・コロナ前後で状況が変わっている。オンラインやオンデマンドが広まっており、2日間の日程確保は困難か。
  - ・次年度以降の開催の在り方については検討の必要がある。
4. 第69回水工学講演会について(12/2-4, 富山県民会館)
  - ・呉先生より305名(初日), アゲール185名との速報値の報告があった。
  - ・特別講演会は京大名誉教授・中川大先生にご登壇いただく。
5. 第28回水シンポジウム2024 in ながの(幹事長) 資料4
  - ・資料に基づき説明された。

- ・事業・予算規模のスリム化を図る目的で今回は半日開催とし講演をメインとした。
- ・笹本氏，松尾先生（東大），高橋正行先生（基礎水理部会）にご登壇いただいた。
- ・非常に盛況であった。長野市の協力により様々な広告が出された。
- ・初の懇親会を開催した。非常に良かったのではないかな。
- ・来賓あいさつは荻原健司市長
- ・今回のシンポジウムは動画撮影ののちYouTube配信している。

#### 6. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画

▶部会：	基礎水理部会（高橋正委員）	資料6-1
	河川部会（内田委員）	資料6-2
	環境水理部会（赤松委員）	資料6-3
	水文部会（市川委員）	資料6-4
▶研究小委員会：	グローバル気候変動適応研究小委員会（小林委員）	資料6-5
	河道管理研究小委員会（戸田委員）	資料6-6
	水理・水文統計解析研究小委員会（風間委員）	資料6-7
	河川観測技術高度化研究小委員会（手計委員）	資料6-8
▶関連委員会：	水工学オンライン小委員会（重枝委員）	資料6-9
	土木学会論文集編集委員会（戸田委員）	
	河川懇談会（二瓶委員）	資料6-10
	水害対策小委員会（竹林委員）	資料6-11
	流域管理と地域計画の連携（市川委員）	

- ・各部部长，小委員長および関連委員から，各部会，各小委員会，関連委員会の活動報告と今年度の予定に関して説明があった。詳細は資料の通りである。

（各部会報告）

<基礎水理部会：高橋先生>

- ・生態水理に関するWGより，2026年にスイスで開催されるシンポジウムについて案内があった。
- ・河川見学会を1月13日～15日に開催。参加希望者は連絡して欲しいとの連絡があった。

<河川部会：内田先生>

- ・新規部会員の報告。5名のアドバイザーを配置。
- ・河川技術シンポジウムではコロナも収まったということで対面部分を拡大し，ポスターセッションを復活させた。口頭，オーガナイズドセッションはハイブリッド開催とした。
- ・コメントの活発化を図るためアウトスタンディングディスカッション賞を設置した。受賞者の紹介があった。
- ・収支について，水工学委員会の予算を使用し，黒字分で過去の論文のJ-Stage化を進めている。
- ・2025年河川技術シンポジウムの案内があった。要旨・論文締め切りが木曜日12:00（正午）なので注意して欲しい
- ・河川シンポでのオンラインディスカッションに積極的な参加をとのお願いがあった。
- ・河川技術論文集では「報告」も重視しているので，良い報告事例があれば奮って投稿して欲しい。

<環境水利部会：赤松先生>

- ・委員：30名，オブザーバー：25名
- ・閉鎖性水域WG（14名）：Blue CarbonとFreshwater Carbonに関するシンポジウムにはWGメンバーも参加。

- ・水温 WG は仮の主査を赤松先生が担当。勉強会の活動とリンクをさせていくことを考えている。
- ・R7 研究集会は世話役の中川先生（長崎大）の都合で土日に開催。

<水文部会：市川先生>

- ・流域治水の先進的活動を行っている大和川流域の見学を実施。
- ・水工学オンライン講演会で京大防災研・山口先生にムーンショット課題について紹介いただいた。
- ・12月2日に水文部会を開催（参加者は20名程度）。今後の予定等について確認した。
- ・来年度水シンポについては水文部会が担当

<グローバル小委員会：小林先生>

- ・分野横断の小委員会のためメンバーが部会の委員会に参加できない。休み時間を延長できないかとの相談があったが、泉委員長から調整は難しいとの回答があった。

<河道管理研究小委員会：戸田先生>

- ・顧問は田中先生

<水理・水文統計解析研究小委員会：風間先生>

- ・3つのタスクで進めている。
- ・Task3についてはオブザーバーへのヒアリングを行い、国交省と進めていく予定。

<河川観測高度化研究小委員会：手計先生>

- ・合同観測会は FRICS の大きな支援を受けて風速の影響を詳細に調査している。
- ・観測データは全て公開する。現在整備中。
- ・報告会については河川シンポジウムの前日または翌日を予定。
- ・次回観測会は融雪期を予定。出水の有無は自然任せで狙うことが困難なので、日程はフィックス。
- ・データは参加者以外も閲覧可能か：企業分についてはペンディング。大学のものはフリーの予定。

<オンライン小委員会：重枝先生>

- ・6月からの変更：岡山大学・辻本先生に1年目幹事を務めていただいている。

<河川懇談会：二瓶先生>

- ・交流を広げるために学の委員を34名から68名に増員。12月3日（火）昼休みに開催予定。会場は304。
- ・対面がなかなか大変なので水工学委員会に合わせて開催
- ・中北先生：学側からは新たな参加希望、国交省から若手との交流希望があったのでメンバーを増やした。
- ・小澤氏（国交省）：懇談会を通じて知識を組み合わせ問題解決に生かしたい

<水害対策小委員会：竹林先生>

- ・12月開催のシンポジウム「建築の新常識：水害と対策の最前線」の申し込みは建築学会よりとのこと。
- ・令和6年7・8月東北豪雨災害調査団の報告会は2月28日に開催予定。

7. その他

<IAHR Japan Chapter：川池先生>

- ・IAHR は来年はシンガポール、2027年イタリアで開催予定。そろそろ日本での開催をとの声もある（1993年以来30年以上開催していない）
- ・本日昼休みに会議。来年のシンガポールでのIAHRの際に立候補の予定。
- ・開催となった際には水工学委員会のメンバーに協力して欲しいとの依頼があった。

<水理公式集例題集編集小委員会：泉先生>

- ・12月23日に発売予定（定価4900円+税）
- ・プログラムはGitHubで公開。

<流域管理と地域計画：市川先生>

- ・1月8日にWSを開催予定。今回は完全オンライン。
- ・申し込みは土木学会のページより可能。

## 《協議事項》

### 1. 令和7年度第70回水工学講演会の開催について

（郡山市中央公民館，川越委員・梅田委員）

協議資料1

- ・川越委員より、次年度の水工学講演会に関する準備状況の説明があった。
- ・1999年に水工学講演会の解析実績があり、宿泊施設は十分と考えられる。
- ・AGUは12月15日～12月19日なので提案された日程（12/10～12/12 or 12/2～12/4）との重複はなし。
- ・（会議後報告）→次回水工学講演会の日程を確定した：2025年12月10日(水)～12日(金)

### 2. 令和7年度水工学に関する夏期研修会（九州，水工学委員会主担当，矢野委員）

協議資料2

- ・矢野委員より準備状況に関する説明があった。
- ・赤字を出さないように現地+オンデマンドの開催とした。
- ・黒字化のラインである現地での参加者100名を目標とする。
- ・防災の講義は川辺川ダム＝流水型ダムの話題提供を予定
- ・参加者減少の理由はあるか→明確ではないが現地参加のインセンティブ
- ・以前から動員をかけないと赤字であった。かつては学生やコンサルの方が話を聞く機会がなかった。（いまはオンライン講演会などがある）
- ・デモ（Hands-on）を実施すると良い。講師と参加者の距離が遠いという感じがある。
- ・水理公式集例題集を講習会で使用するのもありではないか→例題集の講習会は計画あり（泉委員長）

### 3. 令和7年度水シンポジウム in やまなし（山梨，大槻先生（代理：幹事長）

協議資料3

- ・山梨県とやりとりをしながら準備を進めている。
- ・今年度の長野県での開催に近い形で実施できると考えられる。

### 4. 令和6年度土木学会論文集特集号（水工学）査読・編集作業等（小田編集幹事長）

協議資料4

- ・編集調整会議での変更に伴い、水工学論文特集号についても変更があると考えられる。毎年少しずつ違う、という状況が少しの間つづくと考えていただきたい。

### 5. Journal of JSCE および土木学会論文集特集号の英文論文について（幹事長）

協議資料5

- ・幹事長より資料に基づいて背景・経緯の説明があった。
- ・論文集編集調整会議における3つの案の説明があった。
- ・これまで、案3（英文誌と特集号を切り分ける）とすることで議論が進んできた。

(関連して以下のような議論が出された)

ESCI の評価は悪くない (将来的には IF が付くのではないかと感じた。Special Issue にはできないか  
→杏林舎によると Special Issue も通常号と同じ手続きである必要がある。

クオリティ的には問題ない。将来的には和文誌もこちらになるのではないかと。

通常号に投稿してもらい、そこから講演会に参加するかどうかを決めるというのではないかと

(現行の査読体制において) 期限内に査読が終わるとするのはひとつのメリットではないかと

案 1 にはいつでも乗り換えられるので、まずは案 3 で良いのではないかと。

IF 付の成果が欲しいのであれば通常号に投稿、ある期限内に採択の実績が欲しい場合には案 3 による査読に乗ってもらおうというので良いのではないかと。

応用力学講演会は講演会後に論文投稿という形をとっているが、それだと速報性がない。

ニーズに応じて通常号か案 3 に乗るという選択肢がある方が良い。案 1 にしてしまうと選択肢がなくなってしまう。

案 3 で Journal of JSCE から外れた論文を和文誌に入れられないのはおかしくないかと

新たな IF を目指す英文誌がある中で、和文誌に英語論文があるのはおかしい

- ・案 3 で提案することに同意いただいた。(英語論文を和文誌に含むことができるかは確認する?)
- ・Journal of JSCE という名称の雑誌には乗らなくなる。

#### 6. 令和 6 年度の水工学委員会の予算について (幹事長)

協議資料 6

- ・資料に基づいた説明があった。
- ・予算に余裕があるので、年度末に向けて活動を予定していれば、学会か幹事長まで連絡をとること。

#### 7. 新顧問の推薦(委員長)

- ・立川康人前水工学委員長が顧問に推薦され、認められた。

#### 8. その他

##### 《次期水工学委員会委員長選挙》

- ・出席者 32 名、委任状提出 16 名 (途中退席者 1 名を含む) の計 48 名であり、内規に従い定足数が満たされて選挙が成立することが確認された。
- ・選挙の結果、田中規夫先生 (埼玉大学) が次期水工学委員長に決定した。

(田中先生ご挨拶) 水分野のハブとして様々なことを取り入れつつ、基礎的なことをしっかりと進めていきたい。

(以上)